

「受身（うけみ）」を学ぶ

校長 館岡 靖哲

あけましておめでとうございます。

旧年中は、ひとかたならぬご支援、ご協力を賜りありがとうございました。本年も職員一同全力で取り組んでまいります。変わらぬお力添えをお願い申し上げます。

今年は巳年（みどし・へびどし）です。へびというと、しばしば嫌われ者扱いをされがちですが、一方で、脱皮を繰り返して成長することや、その生命力の強さから、「再生」「復活」「長寿」を象徴し、縁起がいい生き物とされることもあります。そのため、巳年はこれまで努力してきたことが実を結び始める年であるとか、蛇は脱皮をすることから、新たな挑戦や変化に前向きになる年といわれています。新年に新たな目標を定めたならば「竜頭蛇尾」に終わることがないように、健康に留意しつつ、充実した1年にしていきたいものです。

さて、昨年度の1月号では、本校に掲示してある、宮澤章二さんの作品を紹介いたしました。今年度は、視聴覚室前に掲示してある相田みつをさんの作品を紹介いたします。掲示してある作品は「出逢い」ですが、ここでは「受身（うけみ）」という作品を紹介いたします。

柔道の基本は受身 受身とは投げ飛ばされる練習 人の前で叩きつけられる練習
人の前でころぶ練習 人の前で負ける練習です。
つまり、人の前で失敗をしたり 恥をさらす練習です。 自分のカッコの悪さを多くの人の
前で ぶざまにさらけ出す練習 それが受身です。
柔道の基本では カッコよく勝つことを教えない
素直にころぶことを教える いさぎよく負けることを教える。
長い人生には カッコよく勝つことよりも ぶざまに負けたり
だらしく恥をさらすことのほうが はるかに多いからです。
だから柔道では 始めに負け方を教える しかも、本腰を入れて 負けることを教える
その代り ころんでもすぐ起き上がる 負けてもすぐ立ち直る
それが受身の極意 極意が身につけば達人だ。

（ 中 略 ）

若者よ 頭と体のやわらかいうちに 受身をうんと習っておけ
受身さえ身につけておけば 何回失敗しても すぐ立ち直ることができるから・・・
そして 負け方や受身の ほんとうに身についた人間が
世の中の悲しみや苦しみに耐えて ひと（他人）の胸の痛みを 心の底から理解できる
やさしい暖かい人間になれるんです。
そういう悲しみに耐えた 暖かいころの人間のことを
観音さま、仏さま、と 呼ぶんです。 みつを

若いころから苦しい経験をしている相田さんが放つ言葉には、説得力を感じます。ここで表現されている「受身」についても、中学校で学ぶべき大切なことのひとつであると考えます。